

釣行記（2016/10/22 船キス）

この時期は日の出が遅くなつて、金沢の当日の日の出は6：07、到着予定は5時半。いつもより30分遅い出発となる。通い慣れた道だが、安全運転最優先で、燃費良く、停止の局面を極力回避する運転を心掛け、結果としては、走行時間はもう予定通りにしかならない。変動要素は道中のトイレタイムのみ。それでも思ったより寒い。

運転中は運転に集中しなければならないが、やはり今日の釣果について考えてしまう。「今日は東（100）は無理だろうから、せめてその半分（50）を目標としたい。その50をどうしようか。お世話になっているAさんへ10程、この前あれを頂いたBさんへ10程、その前に自家消費分の20程は確保したい」と運転に集中しつつ、妄想に耽る。

ネガティブな想像は天候ぐらいか、あと細かな忘れ物もよくある。そう言えば、昔当所で大雨の中、大爆釣だったこともあったから、釣果に関しては全く心配していない。いつもの「船ギス釣り」、いつもの「穴水周辺」、そしていつもの「メンバーで」。新釣法で逆転したいが、いつもの様に古参メンバーにやや劣るまあまあの釣果だろうなあ。

惨憺たる釣果とは、この日の事。

釣果：シロギス（刺身サイズ1尾、天ぷらサイズ3尾）、カワハギ1尾、他4尾。

他4尾は、港守を主たる業務としている猫様各位へ謹んで献上した。

船中も同様であり、かろうじてのツ抜け（10以上）は2～3名か。メンバー全員から「こんな日もあるさ」とお互いにお互いの戦果をなだめ合う言葉を掛け合った。

それでも差が出たのは、もう誰のせいでもない。条件のせいでもない。自分のせい。当日の新聞の運勢欄に「結局は自分一人の問題であると悟る事が肝心なり」とハッキリと書いてあった。正にその通りなのであろう。「しかし」も何もあったものではない。

実質本年最終回の今回において、新釣法の改善点の集大成としての成果を大いに期待していたのだが、対象の反応が無く、竿頭の古参メンバーでさえ「開始から2時間半、何も釣れなかった」とのこと。つまり、結果として状況は「異常なし」の空っぽであった。

翌日朝、冷静に原因を分析してみた。

- 1) 全てのシロギスが死滅した訳ではない。
- 2) シロギスは年魚ではなく、最長7～8年の寿命のこと。尺ギスがそれに相当する。
- 3) 1) 2) より、時期的に深場へ「落ちた」と考えるのが自然。「落ちギス」の所以。
- 4) いつもの場所全ては「浅場（水深5～10m程）」である。今回もいつもの場所。

対策の結論は、この時期状況が悪ければ、いつもの場所に固執せずに新たな場所（深場）を開拓するに至る。過去に実績があった場所を見限ることは、相当勇気が必要だが。